



## ■主な自然環境対策の取組み

「早稲田リサーチパーク地区」と「本庄早稲田駅周辺地区」の地域整備事業では、本庄新都心地区環境検討委員会の提言や、学識委員ヒアリングに基づき様々な自然環境対策が実施されています。主なエリアごとの取組みは、以下の通りです。

### Ⅲ. 半地下覆土型道路計画地エリアー早稲田リサーチパーク地区ー



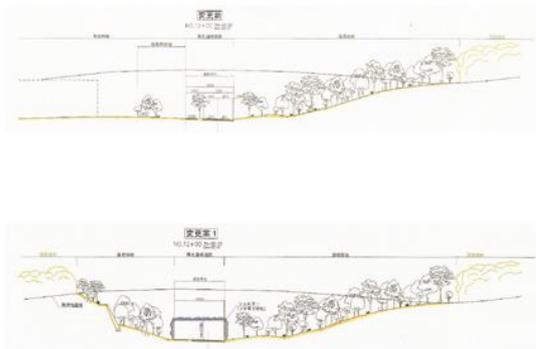
●2009年4月22日  
道路計画地上部のコナラ林



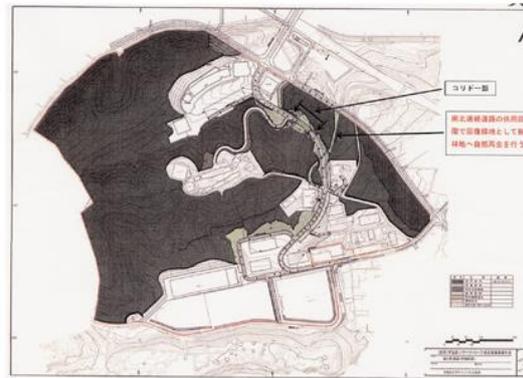
●2009年4月22日  
道路計画地上部のアカマツ林

2007年の開発全体計画の大幅修正の中で、緑地を分断して新規建設される南北連絡道路計画では、環境検討委員会の意見を踏まえ、道路上部を覆土し樹林を再生して「生態的コリドー（回廊）」として東西の緑地をつなぐ計画が、決定されました。

◆南北連絡道路・生態的コリドー断面図



◆コリドー位置図

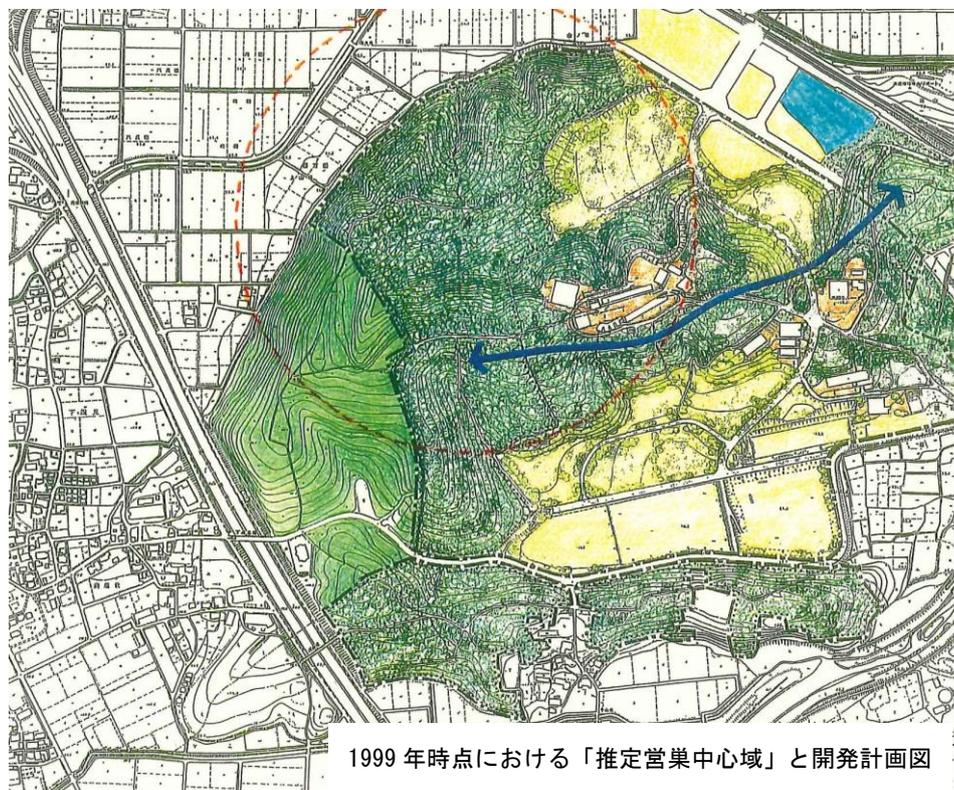


■採用計画

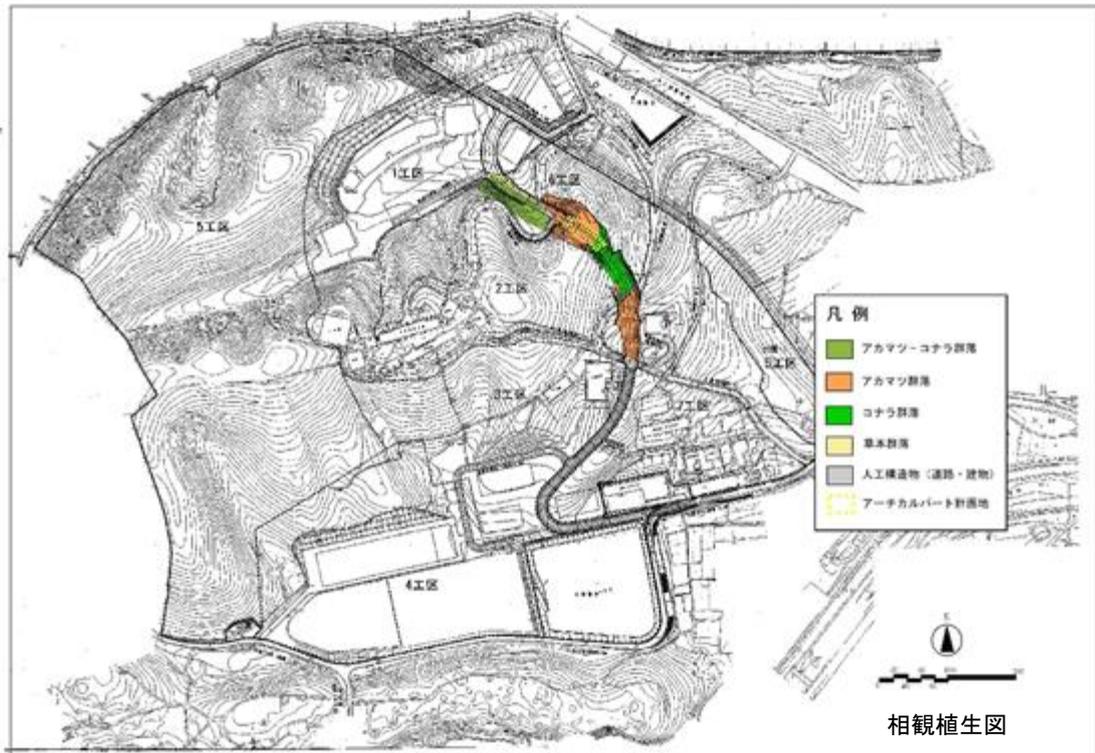


既定計画で南北連絡道路は、樹林地を掘削改変して造成する平面道路でしたが、対策検討を繰り返す中で地形条件を活かし造成量を減らした半地下構造とし、上部に土を盛って元の樹林を再生する構造としました。

半地下覆土構造で、上部を自然再生する道路環境対策は、ドイツ等の環境先進諸国では少なからず取組まれていますが、日本国内での実施事例はまだ極く少ないのが現状です。一度開発して道路の建設後に生物多様性の高い樹林地をとり戻すためには、現状の把握と的確な目標の設定が不可欠となります。



赤枠点線で囲われている範囲が、1999年時点におけるオオタカの「推定営巣中心域」になっており、東西の樹林地を生態的コリドーとして再生・連続性を確保することで、生物多様性の保全と向上を図る計画です。



計画の具体化に向け、南北連絡道路に接する樹林地の植生モニタリング調査が行われました。改変対象エリアの相観植生図では、主にアカマツ林およびコナラ林で構成されており、雑木林をイメージする二次林の特徴が示されています。そのため覆土上部の自然再生では、同様の群落構成を持った樹林再生が目標とされます。



●2010年8月19日  
アカマツ林の樹冠の様子



●2011年8月31日  
アカマツ林の林床の様子



●2012年4月18日  
アカマツ林の林床の様子



●2013年10月15日  
アカマツ林の林床の様子



●2010年5月6日  
クサボケの開花



●2013年5月2日  
コナラ林の林床の様子

また、林床は区画に応じた下草刈りが行われており、アカマツ林の林床管理区ではクサボケ等の明るい半自然草地の特徴がみられます。コナラ林の林床や林縁では、キンラン・イボタノキ等の生育が見られ、ウラゴマダラシジミの発生も確認されたことから、多様かつ良好な樹林環境が維持されていることが分かりました。



●2020年5月3日  
道路の覆土上部に再生されるコナラ林のイメージ



●2019年6月15日  
希少種のウラゴマダラシジミ



●2019年2月8日  
コナラ林の管理区(左)と放置区(右)



●早稲田リサーチパーク整備事業が着手された2002年段階の緑地の広がりにつながり